

献辞 気骨の人—西先生

学 長 加 藤 寛

西昭夫名誉教授は昭和44年3月、日本大学の文学研究科心理学専攻博士課程を修了された後、同年4月本学専任講師として勤務されました。本学では主として心理学と教育心理学を担当され、昭和47年に助教授、昭和52年に教授に昇進され、平成15年3月70才の定年を迎えられ、現在は本学の非常勤講師として親しく学生の指導にあたっておられます。

先生は信念をもってことにあたられ、気骨の人という印象が強くあります。なぜ、日本大学に学ばれたのですかとうかがったら、「自分は心理学に惹かれており、当時広島大学教授であった故古賀行義（元日本心理学会会長）先生に私淑し、広島大から日大に先生が異動されたので、広島大で学んだ後、その御跡を追うことになりました」と答えられ、その芯の毅然さに心をうたれました。

西先生の御研究は、第一はカウンセリングと学生相談に関する研究。第二は産業心理学分野の研究。第三はパーソナリティや行動パターンに関する研究の3分野になります。

はじめて千葉商大キャンパスを訪れた時、第4校舎の廊下・階段に学生がびっしりと並んでいるのでびっくりしましたが、誰一人私語をする者もなく、みんな教室に向かってかすかに聞こえてくる講義に耳を傾けているので「何なの？」と私が聞いても誰も答えてくれません。やっと講義が終わったらしく室内が騒がしくなったのでのぞいてみたら、西先生の紅潮した顔と白髪がみえてきました。何とこの学生たちは西先生の一言一言を聞き漏らすまいとして並んでいたのです。それほど先生の講義は学生を魅了していたのです。

学生相談室の運営、カウンセリングの技法、対人恐怖症の研究、スチューデント・アパシー（無気力）などについての臨床心理学的研究。企業でもいま社員の心の病は激増しています。その分析と対応から、その裏にある心理学の真髄となる行動研究。それを実践した市川市の研究など、西先生の必要性は高まるばかりでありまし

た。地方自治体や公的機関から先生の門を叩く人は門前市を成していたといっても過言ではありません。

とくに千葉商大を中心に育ててくださったピアヘルパー講座の運営は大きな財産をつくってくださいました。名誉教授となられた先生はしばらくまだ学生を指導くださることになっていますが、先生のなされたお仕事は、いまや本学の大きな誇りでもあります。感謝申しあげるばかりです。